

	進取の気概 (校長室だより)	有田市立箕島中学校 自主 友愛 剛健	R3・7・19
			No. 24

季節それぞれの風景や色、香りなどを意識して感じ、楽しむことができると心や生活がより豊かで潤いのあるものになります。みなさんにはそんな感性豊かな人になってほしいと願っています。梅雨も明けましたので、今回のテーマは「夏」です。

季節
風景色
香り
を感じ
楽しむ

しづか
閑さや岩にしみ入る せみ
蝉の声

以前に紹介した松尾芭蕉の話の続きです。白河の閑を出発してから約1ヶ月後、1689年7月13日に現在の山形県山形市の立石寺りつしやくじ（山寺の通称で有名です）にお詣りしたときです。ここは山深い場所にある寺院、建物の扉も閉まっています物のたてる音は聞こえません。



立石寺（山寺）

閑さや 岩にしみ入る 蝉の声

「なんて静かなのだろう。その中で岩に染み通っていくような蝉の声が、いよいよ静かさを強めている。心は静かに澄みゆくばかりである。」と詠みました。大変有名な句です。

※この句に登場する蝉はどんな種類の蝉だったのでしょうか。また、1匹かそれともたくさんの蝉が鳴いていたのでしょうか。想像したり、調べてみたりしてください。

海

訪れた夏をむかえて

海は

光の祝祭のような

きらめく銀の波でこたえる

あなたは

ゲーテのこんな言葉を

思い出さないか？

〈人間は海のようなものだ

それぞれ違った名前を持っていても

けつきよくは

ひとつづきの潮水なのだ〉

〈夏を感じられる詩を一つ紹介します〉

川崎洋詩集
海があるということは
理論社